

言語発達障害学

[講義] 第2学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 橋本竜作 hashi-ryu@hoku-iryo-u.ac.jp
小林健史 福田真二

【概要】

言語発達の遅れを生じる障害について基本的な項目の修得を目指す。第2学年前期の「言語発達学」で学んだ定型発達児の言語獲得過程を指標として、言語発達障害の特徴、その評価（情報収集と検査）の概要を学ぶ。また関連する障害（自閉症スペクトラム障害、知的発達障害、特異的言語発達障害、限局性学習障害、注意欠如・多動性障害、脳性麻痺・重複障害など）について学ぶ。この講義は第3学年の「言語発達障害学」「言語発達障害学演習」の基礎となる科目である。

【学修目標】

【一般目標】

言語発達障害学の基礎的概念と知識を習得する。

【行動目標】

1. 言語発達障害および関連する障害の基本的な概念を説明できる。
2. 言語発達障害と、その背景要因、発症メカニズムを推定できる。
3. 言語発達障害が生じる障害を説明できる。
4. 障害の特徴と、評価について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	言語とコミュニケーションの発達	前期「言語発達学」で学んだ、前言語期、幼児前期、幼児後期、学童期の発達の段階を再確認し、それらの概要について学ぶ。	小林健史
2	言語発達障害とは	言語発達の阻害要因を学ぶ。	橋本竜作
3	言語発達障害の評価・診断	情報収集と臨床の流れを学ぶ。	橋本竜作
4	自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の基本的概念について学ぶ。	小林健史
5	自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の言語・コミュニケーションの特徴について学ぶ。	小林健史
6	自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の評価について学ぶ。	小林健史
7	知的発達障害	障害の定義とその特徴、評価について学ぶ。	橋本竜作
8	特異的言語障害	特異的言語障害の基本的概念について学ぶ。	福田真二
9	特異的言語障害	特異的言語障害の症状の特徴について学ぶ。	福田真二
10	限局性学習障害	障害の定義と、その特徴について学ぶ。	橋本竜作
11	発達性読み書き障害	読み書き障害の特徴と、評価について学ぶ。	橋本竜作
12	注意欠如・多動性障害	障害の定義と、その特徴・評価について学ぶ。	橋本竜作
13	脳性麻痺・重複障害	脳性麻痺・重複障害の基本的概念について学ぶ。	小林健史
14	脳性麻痺・重複障害	脳性麻痺・重複障害の言語・コミュニケーションの特徴と評価について学ぶ。	小林健史
15	まとめ	小テストと解説を通じて、学習内容の定着を図る。	橋本竜作 小林健史

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト 20%（橋本担当分10%：小林担当分10%）、定期試験 80%（橋本担当分40%：小林担当分30%：福田担当分10%）
試験実施後、問い合わせがあった際には解答の要点を掲示する。

【教科書】

深浦順一 他 編 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学 第3版」 医学書院 2021年

【参考書】

笹沼澄子 編 「発達期言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論」 医学書院 2007年
石田勝義 他 編 「あたらしい言語障害のみかた・治療・教育」 古今社 2014年
石田宏代 他 編 「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社 2016年

【学修の準備】

- ・予習として講義内容を確認して、該当する教科書の頁を読んでおくこと（40分）。
- ・復習として資料を精読し、専門用語・症状の特徴を中心に暗記すること（40分）。
- ・各障害の定義を説明し、専門用語を解説できるようにまとめておくこと（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

小林健史（言語聴覚士）
橋本竜作（臨床発達心理士・公認心理師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や児童福祉施設での実務経験を活かし、専門職業人として必要とされる言語発達障害及び関連する障害の特性について基本的知識を講義する。